

第1回奈良市学校規模適正化検討委員会会議録

日 時 平成22年(2010年)10月1日(金)13:00~14:30

場 所 市役所 中央棟6階 第1研修室

委員名簿 奈良市学校規模適正化検討委員会委員(19人)(敬称略、順不同)

会 長 重松 敬一 (学識経験者・奈良教育大学教授)  
椋本 洋 (学識経験者・立命館大学教授)  
小柳 和喜雄 (学識経験者・奈良教育大学教授)  
横山 真貴子 (学識経験者・奈良教育大学准教授)  
山口 清和 (地域代表・奈良市自治連合会長)  
田中 幹夫 (弁護士・奈良市顧問弁護士)  
宮木 健一 (保護者代表・奈良市PTA連合会会長)  
岡田 美佳 (保護者代表・奈良市PTA連合会中高部会部長)  
香川 江里 (保護者代表・奈良市PTA連合会小学校部会部長)  
副会長 秦 俊彦 (学校代表・奈良市立学校園長会会長)  
黒田 八郎 (学校代表・奈良市立中学校長会会長)  
久保 賢一 (学校代表・奈良市立小学校長会会長)  
桐野 ゆみ (学校代表・奈良市立幼稚園長会会長)  
巽 一郎 (行政代表・企画部長)  
浦出 雅史 (行政代表・総務部長)  
片岡 隆弘 (行政代表・市民活動部長)  
奥田 千昭 (行政代表・保健福祉部理事)  
森井 弘 (行政代表・学校教育部長)  
荒木 恵子 (行政代表・教育総務部長)

出席者 委員 15名(欠席:椋本委員、横山委員、久保委員、巽委員)  
事務局 10名(学校教育課長、学務課長、教育総務課長  
教育企画課長、教育企画課職員6名)

傍聴者 市民 3名

議 事 1.開会  
2.委員委嘱  
3.教育長挨拶  
4.委員自己紹介・事務局職員紹介  
5.会長、副会長の選出  
6.議事  
(1)奈良市学校規模適正化実施方針等について

- ( 2 ) 奈良市学校規模適正化前期計画(H19-H22)における総括について
  - ( 3 ) 中期計画(H23-H25)案の策定に向けて
  - ( 4 ) その他
- 7 . 閉会

#### 開会

- ・事務局が、平成22年度第1回奈良市学校規模適正化検討委員会の開会を告げた。
- ・「学校規模適正化検討委員会」の公開に関する実施要項に基づいて、傍聴を認める旨を告げた。

#### 委員委嘱

- ・教育長が各委員に委嘱状及び辞令を交付した。

#### 教育長挨拶

#### 委員自己紹介・事務局職員紹介

#### 会長、副会長の選出

- ・奈良市学校規模適正化検討委員会設置要綱第5条第2項に基づき、委員の互選により重松委員が会長に選出され、重松会長が副会長に秦委員を指名した。
- ・同設置要綱第6条に基づき、重松会長が議長となった。

#### 奈良市学校規模適正化実施方針等について

- ・事務局より、パワーポイントによる説明を行う。

#### 奈良市学校規模適正化前期計画(H19-H22)における総括について

- ・事務局より、パワーポイントによる説明を行う。

#### 中期計画(H23-H25)案の策定に向けて

- ・事務局より、パワーポイントによる説明を行う。

#### 会長

- ・事務局の説明について、何か質問はないか。

#### A委員

- ・PTAが幼稚園関係の内容の研修会を開催すると、保護者から「3歳児保育の実施」「預かり保育の充実」という意見が多く寄せられる。
- ・右京幼稚園と鳥見幼稚園において、小学校併設を進め、幼小連携を図っているという説明があった。たしかに小1ギャップの解消も大事だと思うが、PTAとしては、「3歳児保育の実施」「預かり保育の充実」を希望している。幼小連携の強化という部分は、保護者の要望に沿っていないのではないか。
- ・公立幼稚園の園児数の減少の原因として、地域の子どもも減っていることもあるかもしれない。しかし、それ以上に私立幼稚園や保育園に流れているのではないか。

- ・非常に園児が減少し、教員と1対1になるような園もでてくる恐れもあると聞いている。個人的な意見になるが、募集の段階である一定の規模の集団を確保できない場合、教育を行えない、そのため幼稚園を開園しないという方法も考えられるのではないかな。

#### 会長

- ・昨年度の会議で、募集の時期にある一定の園児数が2年間集まらなると幼稚園を閉園するという厳しい方針をとっている姫路市の施策が紹介されている。

#### B委員

- ・非常に厳しい意見である。事務局から「計画策定時の推計園児数より大幅に減少している」との説明があった。この理由として、子どもの数の減少もあるが、それ以上に私立幼稚園・保育園に流れているのではないかな。実際、近隣に私立幼稚園・保育園などがある市立幼稚園の園児数の減少が著しい。
- ・私立幼稚園について思うところを述べたい。例えば、朝10時に迎えるバスがやって来て、昼前に幼稚園に着いて、2時にバスに乗って降園し、3時か4時に帰宅をする。この状況は、預かりとも言えないと思うが、保護者はこちらのほうを選ぶ。
- ・幼稚園教育に携わってきている立場で述べたい。例えば、園長と非常勤講師と園児一人という過小規模園があるとす。その状況を「1対1で手厚いなあ」と感じられるのは、いかがなものか。それが1対5だとどうなのかという問題ではなく、このような状況では、幼稚園教育ができない。
- ・幼稚園に入りたいから、入園するというものでもない。「協働の学び」が大切である。「協働の学び」が無いと、小学校に向けての教育機関という位置付けにならないし、幼稚園教育を実践できない。
- ・子どもにとっては何がいいのか、保護者にとっては何がいいのか、このことをしっかりと考えてほしい。そのうえで、統廃合を早く進めてもらいたい。また3歳児保育も早く実現してほしい。
- ・3歳児保育について、私立幼稚園の圧迫になるという意見もある。しかし、「市立幼稚園がいい」という保護者の意見もたくさんある。この意見もしっかり汲み取ってほしい。
- ・また過小規模園においては、危機管理の問題も発生する。少人数の先生で子どもたちの命と心を守る、そのことが非常に難しくなっているのではないかな。

#### C委員

- ・先ほどの説明で「幼稚園・保育所の園児数及び就園率の推移」が提示された。市立幼稚園で園児数・就園率が下がっている状況は理解できた。また、その理由について、先ほどまでの議論で述べられていた。
- ・しかし、どの私立幼稚園が増えたのか、そこまでは見えなかった。それが分かれば、そちらに流れた方々に市立幼稚園へ戻ってもらうために何をすればいいのかが見えてくるのではないかな。

#### 事務局

- ・資料の持ち合わせはないが、どこがどのように推移したかについては、調べれば分かると思う。
- ・しかし、幼稚園については、ほとんど校区内の幼稚園に行くと考えられるが、保育園については、いわゆる校区というものが無い。そのため、この地域から減った園児がどこに行ったという部分については、一概に説明できないのではないかな。

#### C委員

- ・質問の意図としては、当初の推計に比べ、減少したその園児の保護者がどこに子どもを預けたのか、そのこ

とを調べると、保護者の要望が分かるのではないかと考えた。

#### D委員

- ・保育所に入園するには「保育に欠ける子ども」であることが前提になっている。
- ・現状として、共働きの家庭が増えてきており、対応するため私立保育園の設置をお願いしている。働く気が無い、もしくは働いていない家庭については、幼稚園に行くのではないかと。

#### 会長

- ・現在、市立幼稚園の募集が始まっている。応募の段階で市立幼稚園に行かせるつもりであっても、実際の応募状況を聞いて、取りやめる場合があると聞いている。これも園児数減少の一つの原因かもしれない。
- ・前期計画の総括を踏まえると、今までのやり方で中期計画を策定するだけでは、園児数の減少を食い止められないのではないかとという危機感がある。また、幼稚園型の認定こども園の導入だけで対応していくのは難しいのではないかと。

#### E委員

- ・神功小学校区に住んでいる。神功幼稚園の園児は非常に多かったが、この10数年で一気に園児が減少したように感じる。その原因として、神功に団地が出来た当初、そこに住む子どもたちが園児として入園した。しかし、その後の街づくりにおいて、新しい展開が無く、若い住民が増えていないことが考えられる。

#### 会長

- ・今までの検討委員会でも、地域の街づくりが園児数の減少に影響しているという指摘があった。

#### F委員

- ・園児数の減少を嘆いていても仕方がない。大胆に言うと、奈良市の人口政策の失敗である。
- ・なぜ東部山間地域にごみ処分場などではなく、住宅地を作らなかったのか。あの地域で新しい住民を増やす必要があった。
- ・奈良市に住む保護者は、待機児童が多いと嘆いている。こういう保護者は、市立幼稚園に園児が集まらないことを嘆いていることが理解できない。思い切って、幼稚園に保育所の待機児童を受け入れられるような施策を展開できないか。例えば、学童保育的な延長保育を導入するなどの施策を大胆に取り入れることはできないか。奈良市の小学校で行われている学童保育は、他都市の状況に比べて、順調に運営されている。そのノウハウを取り入れて、実施することができるのではないかと。
- ・現在、幼保一元化や認定こども園などの施策はあるが、地域によっては、なかなかうまく展開できていない事例も見受けられる。奈良市の場合、幼稚園型の認定こども園については、うまく機能しているようでは評価したい。
- ・田原幼稚園について、地域の方に聞くと「保育所がとられ、幼稚園もとられてしまう。」と嘆いている。しかし、現実にそうなった場合は、政策的にフォローすることは可能だろうと思う。

#### 会長

- ・今まではある意味、対処療法的な施策について議論がされてきた。しかし、奈良市として、長期的な視点も必要ではないか、長期的な視点による施策も大事ではないかという指摘である。
- ・前期計画策定時の推計に比べ、園児数の減少が著しい。また社会情勢の変化も激しい。これらのことを踏ま

えて、中期計画の策定について考えたいが、何か意見はないか。保護者の立場から、何か意見はないか。

#### G委員

- ・近くに六条幼稚園があるが、園舎の老朽化が目につく。また、災害等が発生した際、緊急車両が入りにくい場所にある。また、建て替えの話がずっと出されているが、いまだに実現されていない。
- ・この状況で近隣の私立幼稚園や保育園できれいな園舎やきれいな遊具、制服のかわいらしさをみると、どうしてもそちらのほうに保護者がひかれてしまう、園児が流れてしまう。

#### 会長

- ・現在の保護者が求めている社会的なニーズについて、意見を頂いた。そこに幼稚園があればよいというだけでは、園児は集まらない。そこにプラスアルファがほしいという意見である。

#### A委員

- ・最近設立された私立保育園は、駅前などにある。しかし、園舎は狭小で、園庭が無く、近隣の公園等を利用している。そのような状況を見ると、子どもたちがかわいそうに思う。
- ・こういう現状を改善するためにも、市立幼稚園において一日も早く「3歳児保育」「預かり保育」を実現させてほしい。
- ・保護者には、ただの保育ではなく、幼児教育という観点からの預けたい、という思いがあるのではないか。

#### F委員

- ・保育所について、国が最低保育基準を設定している。その保育という部分と幼児教育という部分について、混同して議論をしていくことは望ましくない。
- ・まず、保育の部分について言及したい。今述べた最低保育基準について、緩めるという議論があるが、反対である。
- ・次に教育の部分について言及したい。先ほどの意見で、保護者のために幼児教育を推進してほしいという意見について、賛成したい。
- ・「3歳児保育」の実現については、教育行政だけではなかなか実現しない。保護者・地域からの大きな声が必要である。その後押しがないと大きな力にならないし、実現も難しい。

#### 会長

- ・事業仕訳等についての意見も頂きたかったが、予定の時間がきた。事務局にお願いしたい。

#### 閉会

#### 事務局

- ・次回については、11月上旬でお願いしたい。
- ・内容は、実施計画(案)に記載されている中期計画(案)の見直しについての意見を頂きたい。また、新たな中期計画(案)を策定するに当たって、具体的な提案をしていきたい。
- ・これで第1回の検討委員会を終了します。ありがとうございました。